

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0841	
施設名	北保育園	
施設所在地	国立市北3-1-1	
法人名	社会福祉法人国立保育会	
活動期間	令和7年5月から令和8年3月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://kunitachihoikukai.jp/kita/?cat=6

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	野菜の不思議 <4歳児 北の味噌をつくろう>					
実施回数・期間 (注2)	合計5回（内訳：5月3回、月1回、月1回） 令和7年5月から令和8年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	12人	人
活動内容 (注3)	北の畑に大豆の種をまき、栽培・収穫・味噌作りを行った。					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 実際に種を触り、固さやにおいを確かめ、意見を言う機会を設けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 子どもたちの言葉をメモで記録するとともに、活動の様子をタブレットを用いて写真にて記録した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 子どもたちが自由に道具を使用したり、素材を選んだりしながら自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整えた。保育者は子供の主体性をもとに活動を展開し、見守ることを心掛けた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 毎日の水やりや雑草抜きを行うことで、興味関心を深め、生長前の写真をもとに発見をするようにした。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ドキュメンテーションやブログをもって探究活動の様子を周知した。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 活動中の子どもたちの反応や興味関心に着目し、図鑑を用いたり絵を描いて掲示することで、活動を発展させた。				

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0841
施設名	北保育園
施設所在地	国立市北3-1-1
法人名	社会福祉法人国立保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の不思議 <4歳児 北の味噌をつくろう>

<テーマの設定理由>

北の畑で夏野菜の大豆を育て、枝豆（野菜）と大豆（穀類）の不思議に気づかせ、収穫し食育につなげる。

2. 活動スケジュール

5月 種まき
6月 枝豆（野菜）の収穫
10月 大豆（穀類）の収穫
2月 味噌作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①耕運機で畑を耕し栽培できるようにうねをつくった。
- ②枝豆の種の購入し、グループで蒔いた。
- ③ガチャポンプの水を使い、畑に水を撒いた。
- ④味噌作りの絵本を読み興味をもたせた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 5月 大豆のうねをつくり、大豆の種をグループで蒔く。
- 6～8月 水やりや雑草抜きを行う。
- 8月 大豆がヒヨドリに食べられてしまい、収穫ができなかった。
- 2月 市販の購入した大豆で味噌作りを行う。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ①ガチャポンプを使用することで、ジョウロに水を入れやすくなったようで「もう一回持てこよう」と繰り返し水やりを楽しんでいた。
- ②枝豆がなくなってしまうと、「鳥が食べたのかな?」「誰かが間違えて採っちゃったのかもしれない」と予想をしていた。
- ③節分の日に大豆を水に浸けるように設定することで「豆まきの豆だ」と大豆に興味をもっていた。
- ④味噌作りでは、水に浸したらどうなるか、煮たらどうなるか、大豆を使った製品は何かを問うことで、興味もてるようにした。「大きくなる」「柔らかくなる」「納豆」「枝豆」と言っていた。
- ⑤ゆでた大豆の大きさや感触、においを嗅ぎながら北の味噌作りを進めた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ①水道から直接ジョウロに水を入れるのではなく、ガチャポンプという井戸を使うことで、水の流れや入れ方に興味をもち、より楽しむ姿が見られた。
- ②大豆は収穫できなかったが、味噌作りを節分の時期にしたことにより、身近に感じる事ができていた。
- ③味噌作りから、みそ汁を飲んでみようとしたり、食事に大豆が入っていると食べてみようとする姿が増えた。